

私の好きな言葉

感性と論理

感性	論理
△	△
判	断
▽	▽
結	果

石川 孝 重

「感性」と「論理」では、相対する言葉のようなイメージがあるかも知れない。相容れないと思っ
ていたりしゃるのではないか。私の解釈では、「感性」は「感受性をもとにした、思惟の感
覚的認識」であり、「論理」は「思考の一つの形式、つながりの法則のゆるがなさ」と認識
しています。この二つを融合することが肝要であり、バランスをとった判断が誤りのない
結果になります。

大きな飛躍的な発想は「感性」で、距離の短い着実な過程は「論理」で行う。やるべき
ことの設定は「感性」で、その実現は「論理」でというように。小生のホームページ
(<http://www.jwu.ac.jp/~jyu-ishii/profile.html>)に「『継続は力』をモットーに『感性と論理』の融合を図る」と記しましたように、このことを念頭において行動するようにしています。

現代の社会では、一つの発明や発見がインターネットを用いることで瞬時に、個人間
はもとより、日本国内はじめ全世界に伝達されます。発明・発見の原点が発想であり、
発想を生み出すものが感性です。ただ、発想はあくまでも観念であり、それを
実現させてはじめて、世の中に還元される「もの」になります。実現の過程でも
より細かな発想が必要なことも多々ありますが、論理的な展開が実現の礎になる
ことは言うまでもありません。我が研究室では、毎年その年度に発表した研究論文
や報告書等を抜刷りとして束ねた冊子を発行しています。この表紙に記した
タイトルが右の題字です。研究のテーマ設定は「感性」で、その実現過程は
「論理」で、それらを融合することで社会的に意味のある結果になる。そんな
ことを意味してこの冊子の題字としました。

(いしかわ・たかしげ 住居学科教授)